

「朱に交われ茜のままに」

第1章

拍子木の音。緞帳前に山童子、登場。曲。歌う。

山童子（歌）むがしむがしが あったげな

山と村とが あったげな

むがしむがしが あったげな

人と鬼との 物語り

歌の合間に緞帳は上がる。舞台には、出演者全員が頭に手ぬぐいを巻いて歌い踊っている。それは祭りのようである。

山童子（歌）むがしむがしが あったげな

山に鬼共 居（え）たらげな

父と娘が 居（え）たらげな

満月の夜の 物語り

アカ、アオイ。列から離れ、舞台全面に出る。

アカ（歌）鬼だ鬼だと言えばかな 姿形が違（たが）うだけ

アオイ（歌）村の人共よか どが立派な心持ち

山童子（歌）むがしむがしが あったげな

山と村とが あったげな

むがしむがしが あったげな

人と鬼との 物語り

満月の夜の 物語り

歌の終わりに舞台は川辺となる。川に見立てた布を上手から下手に張る。川が流れる音。出演者は酔興、山童子を残して、皆散り散りに退場。酔興、酔っている。赤子を抱えて千鳥足である。藍色の着物を着ている。

酔興 やあやあ我こそは鬼共が住まう山がふもとや川伝いに家族を持つ酔興とう申す者である。(満月を仰ぎ見て)あらあ、空にぽっかりあるく穴があいとう。誰じや、こない可愛そなこたしやがるやつは。あ、赤ちゃ、ここだけ。この川さで、水を飲まうよ。

赤子 (無邪気に笑う)

酔興 おめは可愛ええなあ。あら、顔が赤いのう。おめも酔ってるんだか。さすがおらの子だけ。

やまびこ、登場。太鼓の音。

やまびこ その日の川は久方ぶりの大雨で水位を増していた。

やまびこ 一方、この男(おのこ)、物語の始まりの男、酔興は、久方ぶりの酒呑みで顔を赤らめ千鳥足。

やまびこ 腕に抱えるは、まだひとしにもならん女子(おなご)であった。

酔興 アカよ。川は人を狂わさるという話知つとるげな。早う帰らんと、女房が狂ったように怒りやがる。だども、酔い狂って帰ただ示しがつかん。せば、水ども飲んで覚ましたろや。

酔興、川の水を飲もうと座り込む。

酔興 おつとと

やまびこ達 だども、狂ったような千鳥足。右へ左へのご往来。

酔興の千鳥足に合わせて、太鼓が鳴り響く。太鼓の音が早まる。酔興、勢い余って、赤子を川に落としてしまう。太鼓で締めくくる。

酔興 えれえことしだけ。川にアカんぼ落としてしまただ。アカ、待ってれ。すぐ助けるだけな。

酔興、川に飛び込む。太鼓の音。

酔興 どこじゃ、アカーアカー、アカー、アカー！

太鼓の音。

やまびこ その日の川は久方ぶりの大雨で水位を増していた。

やまびこ2 そげに、狂ったような千鳥足。右へ左へのご往来。
やまびこ3 男、水を飲み飲み。あぶくを噴いた。
山童子 川は人をば狂わさる。

太鼓の音。酔興、川に吞まれる。やまびこ達、走り去る。アオイ、川の中から登場。赤子を抱えている。

アオイ ここはどこじゃ。なんじゃ、川か。(赤子に気づいて)おまいは誰じゃ。

アオイ、川から上がる。川、退場。

アオイ おまいはなにもんじゃ。どこから来た？

赤子 (笑う)

アオイ 笑あとらんで、名ぐらい名乗うたらどた。

赤子 (笑う)

アオイ も一度聞くぞ。おまいはなにもんじゃ。どこから来た。

赤子 (笑う)

アオイ ……。

赤子 (笑う)

アオイ なあ、よう言えんか。川の冷たさに驚いたんだな。

アオイ おまい、ようみたら、なんじゃ顔が赤いの。名がないようなら俺がつげたる。じゃ、おまいはアカじゃ。アカと呼ぼう。文句はあるまいな。

赤子 (笑う)

アオイ うれしいんだら。うれしいんだら。しょうがないら、俺がめんどろみたらうや。おまいは今夜から山ノ者じゃ。ええな。

アオイ、山を登って行く。山童子、登場。

山童子 こうして一匹の鬼が一人の赤子を拾ってきた。腕に抱えられた赤子はアカと名付けられた。赤子を抱えるはアオイと呼ばれる一匹ぼちの鬼だった。

アオイの家。アオイ、戸を開けて登場。

アオイ おお、山童子。おまいうちにいたか。勝手にはいるなと言いとるがや。

山童子 雲神から聞きいた話じゃ。じきに山に雨が降る。それをおまいに伝えねばとおもつたまでじゃ。

アオイ 雨なんぞ、俺には関係のなきことだ。

山童子 そうでもないだ。おまい、あかんぼ拾ったばろう。

アオイ なんぜそれを知っとおる。

山童子 それは山ふもとの村のものだ。悪うことは言わん。雨が降る前に村に返してこい。

アオイ いやじゃ、こうつは俺が見つけたんじゃ。一匹で川に流されておったんら。こうつは俺とおんなじら。こうつは俺が育てら。

山童子 おまいが、人の子をか。

アオイ そうじゃ。俺がこの子の父親になる。

山童子 (ケラケラと笑う)

アオイ なんが可笑しか。

山童子 おまいには無理じゃ。おまいにそつは育てらんら。

アオイ そなことはない。俺がこうつを立派な大人にしたるら。

山童子 何があうても知らんぞ。おらは忠告したからら。

山童子、立ち去る。

アカ (笑う)

アオイ 安心せい。俺はおまいを捨てたりせん。いつまでも一緒じゃ。

雨音。山ふもとの村。カケの家。家の周りには月桂樹が群生している。

カケ 酔興さ、さすがに遅すぎるら。月も雲に隠れて暗うくなつた。何をしたらんだらう。帰ってきたらうんと怒うたる。

大和、走ってやってくる。

大和 カケさん、カケさん。大変ら。

カケ どがしただ。そない慌てて。

大和 酔興さんが、川に流されたそうら。

カケ 酔興がか。酔興さは無事なんか。

大和 それがあ……

大和、酔興の着ていた藍色の着物を差し出す。

大和 見つけたるはこれだけだ。他にはなんなんも。

カケ 大和さ、赤ちゃんは無事なんか。おらの子は。

大和 赤子は見つからなかっただ。もしたら酔興さんと共に……

カケ ああ、酔興さ。おらあ一人でどう行きていけばいいだ。酔興さ、酔興さ。おらを置いてかないでくれろ。

カケ、とぼとぼと歩き始める。

大和 カケさんどこらいくだ。

カケ おらは酔興さんのところいくだ。おらをとめないでくら。とめないでくれろ。

大和 カケさん、希望を捨てたらいかん。酔興さんはきつと無事じゃ。赤子も無事じゃ。

カケ ああ、ああ。

カケ、泣き崩れる。

山童子 カケはそれから何日も何日も泣き続けたそうら。カケが泣く間には村と山とに雨が降り続けたそうだ。カケの鳴咽が止む頃には、カケの眼(まなこ)に光が射すことはもうなかったそうだ。

雨音。アオイ、戸を開けて登場。赤子を抱えている。山童子がやって来る。

アオイ アカ、でえじょうぶか。だんだん冷たかなったるだ。すぐ助けるだけな。ア
カあ。

赤子 (弱々しく笑う)

アオイ てまえはどうして笑ったるんら。このままだと死ぬんらぞ。

赤子 (さつきよりも弱々しく笑う)

アオイ 笑うな。アカんぼなんじゃから、泣かなげらんやろ。苦しいげれと泣かなげらんやろ。

山童子 アオ、こつを拾ったるから幾日目だが。

アオイ 太陽は七度顔を見せたるだ。その度に家の壁に傷をつけ印をつけてきただ、間違いはない。

山童子 その間(ま)、幾回、飯をやったるだ。

アオイ 飯？飯なんぞ、月がまた満ちるまでに一度猪でも喰らわば、事足りるだないか。

山童子 呆れただが。人の子は鬼とは違(たが)う。人はそれでは事足りんだんが。このままだ、こつ、弱り死んでしまうら。

アオイ じゃが、どうすらば。

山童子 人間のことは人間にしか分からんばろう。じゃから村に戻してこいと言ったんら。

アオイ 山ふもとの村に行かば助けてもらえるんか。

山童子 そうばろう。じゃが、この雨のながか？この雨のなか行くが？

アオイ 今いがねば、弱り死んらしまう。

山童子 外者を山に入れるからだ。この七日(ななにち)は山の機嫌が悪い。長雨(ながあめ)で土砂も流れ、足元が悪なつとら。今行かば、おまいも無事じゃなぎや。

アオイ じゃが、行かねば。

山童子 何べんも言いとるだ。ほうておげ、こいつは人間の子ら。今なら間に合う。すぐそつを捨ててくるら。

アオイ 違(ちが)う。アカは俺の子ら。人間ばろうが、アカは俺の子ら。

アオイ、頭に手ぬぐいを巻き、村に向かう。山童子、退場。アオイ、山を駆けて行く。太鼓の音。カケの家の前で力尽きる。カケ、戸を開けて登場。

カケ あんら、どがしただ。

アオイ ……。

カケ にかく、いいれ。

二人、家に入る。

カケ 今、あたかいもん持ってちやるが。

アオイ ……。

カケ、杓子に水を持って戻ってくる。

カケ ほれ、水だ。ゆつくり飲め。

アオイ 有り難う。有り難う。

カケ おまい、こげな雨んなかどがしただ。

アオイ お願いがある。この子を助けてやってぐれ。

カケは目が見えていない、手探りでアカの存在に気がつく。

カケ ああ、この子は赤んぼだな。だいぶん弱つとるだ。待つてれ。今、重湯つくうちやるがや。

カケ、家の奥に消える。

アオイ アカ、えがっただな。食うもんもらえんだ。えがった、えがったなあ。

カケ、戻ってくる。

カケ ほれ、のませい。

アオイ、飲ませようとするがどうしてよいか分からない。

カケ おらがやるだ。

アオイ ああ。

カケ ほれ、ご飯だぞ。

アオイ 飲んだ。飲んだだ。えがった。えがったあ。

カケ おまい何をしたるだ。こない弱るまでこん子置いといて。おまいみたいな父じゃ、この子は幸せにはならんや。

アオイ 違(たが)うだ。俺はこつんために歌も歌ったるだ。いろんなころに連れたるだ。

カケ 気持ちだけだあ赤んぼは育てられなんだ。しゃきとした知恵をつけるだ。

アオイ どがすらばええだ。やってもやても分からんだ。分からんだら。

カケ 阿呆が。しっかりするだ。おまい父じゃろ。

アオイ アカ…

アカ (泣き叫ぶ。)

カケ 泣いた。泣いただ。

アオイ 泣いただ。

カケ ええ泣き声じゃ。生きようとしたるだあんたと一緒に。この子はもう大丈夫じゃ。

アオイ 俺と生きてくれるるか。ああ、ありがとう。ありがとう、ありがとう……

溶暗。雨音。いずれ止む。カケ、目を覚ます。アオイは既に居ない。大和が家の奥から出てくる。

大和 カケさん、おはよう。

カケ 大和さ。酔興さ、酔興さがえただ。おらのとこに帰ってきただ。

大和 酔興さんが…。

大和、猪の亡骸が転がっているのに気がつく

大和 これは…猪か、すごい傷だ。

カケ きつと酔興さが持ってきてくれただ。

第二章

山童子 カケのおかげでアカは元氣を取り戻した。そして、幾年も過ぎて行き、アカは九つ。九年も山にいれば、もう立派な鬼だ。

アカがやってくる。顔には生まれつきの大きな傷が付いている。

アカ おい、山童子。つべこべ言うくらんで遊びに行かや。

山童子 おまいなあ。口の利き方に氣を付けい。おらを誰じゃおもつたるんら。おらはこの山の主、山童子であるぞ。歳も五千三百歳でなあ…

アカ なあなあ。なんでも聞いたらあ、そげなことは。おまいがいかんのなら、俺は一人でもいくら。

山童子 待てアカ、アオイには言うたんか。

アカ なんぜとちやに言わんとあかんや。

山童子 また怒られつど。

アオイ、登場。

アオイ ごらあアカ。どこら行くんら。

山童子 ほうら、言うただん。

アカ どこに行こうが、とちやには関係のないことだが。

アオイ 関係ないだと。今、関係ないと言うたが。

アカ うっさい。

アオイ まつとれ、アカ。どこに行くんら。

アカ そんなの決まうとろう。いつものところ。

アオイ また、山ふもとが。あこいへは行くなと、何遍も言うつたらが。

アカ そんなことは俺の知った事じゃなが。

アオイ、アカに立ちはだかる。

アカ 退(の)くだ。

アオイ 退(の)かぬ。絶対に行かせぬぞ。今日(こんにち)はここにおれアカ。

アカ 今日(こんにち)でなかなかなんだ。

アカ、アオイの横を抜けようと走り出るが、アオイがそれを抱えるように捕まえる。

アカ うがあ、離すだ。

アカ、アオイの腕に噛み付く。

アオイ いたあ

アカ、アオイの腕から逃げ出る。

アカ じゃったあ、山童子、行くら。

山童子 おい、アカ、待てい。

アカ、行ってしまう。

山童子 鬼じやろうが娘にはお手上げさな。

アオイ うっさいわ。

山童子 どうするんら、あの子。

アオイ 山童子、様子ば見てきてくれ。

山童子 おう、任せい。

山童子、アカを追いかける。

アカ 行ってくるら。

山童子 簡単(かんた)には村には行けねんど、山と村にの間(ま)の川を越えねばならんや。

アカ 分かったるだ。去年は岸に足がかかったら。

山童子 そのまま川下まで流さるるたろうに。今年もそうなるら。

アカ あれは川下まで泳いだんだ。わしももすぐ十(とお)になるら。今年は越えらるるだ。

山童子 毎年飽きずにようやるら。

アカ、助走をつけて飛ぶ。太鼓の音。向こう岸に飛び移る。

山童子 あいつ、やっただ。

アカ やっただあ。じゃ行ってくるら。

山童子 おい、待っただるだ。

太鼓の音。村人たち、登場。朱色の着物やら禪(ふんどし)やらを巻いて踊っている。祭りの様子。

村人 (歌)むがしむがしが あったげな

山には神が 居(え)たらげな

むがしむがしが あったげな

山に鬼など 現われらん

鬼のお陰ら 空暗く

米ば取れぬと泣く童子

童子の涙は川らなり

川は人をば狂わさる

アカ 山童子、あれはなんら。人らが珍妙な動きをしとるがや。

山童子 ああ。今日は年に一度の豊作を祝う祭りの日ら。あして舞うて、今年一年の豊作を祝い、来る年のさらなる豊作を願うだ。

アカ ほうか、楽しそうだなあ。

村人 (歌)むがしむがしが あったげな

川には鬼が 水浴びを

むがしむがしが あったげな

怒り鎮めん お納めを

とっぴんぱらり とっぴんぱらり とっぴんぱらりのぶうのぶう

大和がやって来る。

村人 お、大和だ。おい大和。いつ戻ったるだ。都はどうだった。

大和 つい昨日戻った。今年も大豊作だったそうだな。山神様のおかげだ。

村人 いや、大和様が去る年に、川から水路を引いたたおかげですじゃ。いや、ほんとに頼りになるうて。みんな言いとるだ、酔興さん亡き後、次の村長(むらおさ)は大和様だつて。

大和 もう十年になるか。酔興さんのことは実に残念だった。

村人 十年村長(むらおさ)なしにやってきたが、皆大和には頼りにしたるだ。村長を決めたるなら、そは大和だろうて。

大和 村長(むらおさ)なんて、そんなことに興味は無い。みんなが幸せなら嬉しいんだ。

村人 さすが人がよく出来ていらる。

アカ、山童子、山の中腹から覗いている。

アカ 山童子、俺も交ざりたい。俺もあれやりたいだ。

山童子 そげなこと出来ん。おまいは鬼の子ら。人に姿を見せてはならなんだ。

アカ 関係ない。俺は行くぞ。行かせてくらにやあ、とちやが大事にとつとつた干し柿を盗み食ったのはおまいだと、とちやに言うぞ。

山童子 おまい、なんぜそれを。

アカ さあ、どがするだ。

山童子 わがた。わがた。しかたがなぎや。ほれ。

山童子、手ぬぐいを差し出す。

アカ うん？

山童子 よそもんはよくよく目立つ。これを被っていげ。

アカ なあ、わかっただ。

アカ、手ぬぐいを被り村に降りていき、祭りに混ざる。

村人 とつびんぱらりのぶう とつびんぱらりのぶう
とつびんぱらり とつびんぱらり とつびんぱらりのぶう

アカ、上手く混ざれない。踊っているうちに手ぬぐいが外れている。

アカ とつぴんぱらりのぶう とつぴんぱらりのぶう
村人 …。

村人1 おい、おまい誰じゃ。見ない顔だが。

村人2 他所もんが村の祭りに混ざるな。出てけ。

村人3 出てけ！

村人 出てけ！出てけ！

村人達、口々にアカを追いつ出そうとする。太鼓の音。アカ、それをかいくぐり逃げ出る。気がつくとかケの家の前にいる。

アカ 気配がせぬじゃ。ここにいろいろ。

アカ、カケの家にはいり、戸を閉める。カケが寝ている。

アカ これで安心じゃ。

カケ (目を覚まして) 誰か居(える)んだか。

アカ おう！驚いただ。死んどるかと思ただ。

カケ、立ち上がるうとして、頭をぶつけてしまう。

カケ 痛あ。

アカ …。

カケ こんなんでも立派に生きとるわ。

アカ おまい、目が見えんだか。

カケ 見えんでも分かるだ。

アカ 分かあとらんだないか。

カケ 人の心が分かれば見えんでも十分じゃよ。おらにはおまいが分かる。

アカ 人の心？俺は鬼じゃ。そなものはない。

カケ 鬼？

アカ あ、これは言うたらいかんのじやったじゃ。忘れてくれ。

カケ ははは。あなた面白いね。自信持ちなあなたは素敵じゃ。立派な人の心を持つたるだ。あんた名あは？なんて言うんよ。

アカ アカ、俺はアカじゃ。おまい、

カケ おまいじゃない。おらあカケじゃ。

アカ カケ？覚えにくう名じゃ。カケ？カケか！

カケ そうじゃそうじゃ。

アカ おまいは、ここにひとりなんか。

カケ あら、まあええじゃ。大和さんが面倒見てくれてる。忙しい人だが日の出
とるうちは外に出たるだ。

アカ ほうか。

戸の外で音がする。大和が帰ってきたようだ。

大和 カケさん、開けてくれ。

カケ 大和さんが帰ってきただ。おまい、裏戸から帰(けえ)れ。

大和 家に誰かいるのか？

カケ ほれ、はよせい。

アカ あんがと。

カケ おう、じゃな。

アカ、裏戸から抜け出す。大和、戸の前に鼠がいるのに気が付く。

大和 なんだネズミか。

大和、鼠に向かって足で砂をかける。鼠は驚いて逃げ出す。

大和 二度とここに来るんじゃないぞ。

大和、戸を開けて家に入る。

太鼓の音。やまびこ達が舞う。太陽が沈み。月が登る。

夜。山の中、満月が出ている。アオイが月を眺めている。

山童子がやってくる。

山童子 今宵は満月じゃらな。

アオイ ああ。

山童子 あれから十年(とし)か。アカももう十(とう)になあじゃ。

アオイ そじゃな。

山童子 そろそろじゃあな。おまい、ちやとアカに言うんらぞ。

アオイ なあ、分かつたるだ。

アカが戻ってくる。山童子、立ち去る。

アオイ お、アカ。戻ったがや。

アカ とちや、何しとるだか。

アオイ アカ、こつち来(き)ないな。

アカ ん？(アオイのそばに寄って)なんらどがしただ？とちやなんか変だぞ。

アオイ 月が綺麗じゃ。よう見らんや。

アカ なあ、おきな満月じゃの。

アオイ …なあ、そうじゃの。

アカ …とちや？

アオイ アカ、満月は寂しいさのお。おのの輝きがばかりにおのが近くの星が消えやがる。あなに輝いとうのに、じゃからこそ一匹法師(ほうし)じゃ。

アカ …なあ。

アオイ な…アカ。

アカ ん？なんら？

アオイ …。

アカ とちや、ほんにどがしただ。

アオイ …んいや、一匹法師(ほうし)はやっぱり寂しいやな。

アカ …。

アオイ いいや、オレにはおまいがおる。アカがおりやあ大丈夫だが。

アカ とちや、今夜はなんか気味が悪いだが。

アオイ 気味が悪いだが？今、気味が悪いと言ったか。ナハハハ。

アカ じゃな、俺はもう寝るど。

アオイ おう、寝え寝え。赤んぼの時分のやうに唄ども歌っただろが。

アカ うっさいわ。

アカ、家に戻ろうとする。アオイ、それを呼び止めて。

アオイ アカ。

アカ なんじゃ。しつこいのう。

アオイ おまいが俺のとこに来てから今日(こんにち)で十年(ととし)じゃ。めでとうじゃ。

アカ、突然祝われ驚くが、笑顔になり。

アカ なあ、あんがと。

アカ、家に入る。様子を見ていた山童子が出てくる。

アオイ …。

山童子 なして言わなんだ。

アオイ ええんじやこれで。あいつはもう赤んぼじやなぎや。一人でも生きてらるだ。

山童子 ええが、分かつたるばろう。鬼の命は人ほど長くはねじや。おまいの命も尽きがいや。明日死んでもおかしくないだが。

アオイ それでもええんじや、あつにやなあも言わんだ。ずっと笑だで欲しいんだ。

山童子 そじや、おまい、わしのやうに神にはならんや。山麓(やまふもと)の川で魂を清めいば神になるるんぞ。

アオイ 清めいて、川で溺れ去(いぬ)ことだがら。そげに神なんぞ、俺には向いとうらんだ。

山童子 しかし、神になりや命も永劫ぞ。永遠(とわ)にあの子のそばに居(え)られるんぞ。

アオイ いやあ、ええんだ。あん子は俺なしで生きてがにやならねえんだ。

山童子 …おまいは頑(こ)なじやあな。

アオイ ナハハハ。ナハハハ。

山童子、立ち去る。アオイが一人残って笑い続ける。

やがて笑うのをやめて。

アオイ 太陽もこれで見納めかしらなんだな。

第三章

月が沈む。やまびこ達が舞う。太陽が昇る。アオイは山奥に姿を隠す。アカが家から出てくる。山童子がいつの間にかいる。

アカ …。

山童子 どこら行くだ。

アカ なあ！驚いただ。気配もなしに近づくなと言つたらが。

山童子 おまい、それは手拭いか？まあだ山麓の村にいくらが。

アカ 俺がどこに行こうとおまいには関係の無いことだがら。

山童子 関係ない？今関係ないと言っただが。

アカ うっさいわ。…山童子、とちやはどこへ行ったら。この朝から影が見えぬじや。

山童子 さあ、わしも知らんど。

アカ とちや、昨日(さくじつ)から様子がおかしかっただ。

山童子 あつならすんばいないじや。鬼は身体が丈夫なねんど。

アカ ほうか。ほうじやな。とちやは死んでも死なないだな。

山童子 ほうじやほうじや。

アカ んじや、行ってくるだよ

山童子 おう。

カケの家。カケが歌を口ずさんでいる。アカがやって来て戸を叩く。

カケ くん？誰じや？

カケが戸を開けると同時にアカ、飛び出して。

アカ なあ！カケ！

カケ わっ驚いたあ！何してるんじや！

アカ にひひひ、遊びに来ただ。カケ、またひとりなんか？

カケ いつもこうじや。大和さんは朝早く居出てくかあな。

アカ んじや、カケ、俺に付き合えい。(アカの腕を掴んで)遊びに行くだが。

カケ どこら行くんだ。

アカ、カケを家から連れ出す。山の奥。山童子がアオイを探している。やまびこ達がその様子を見ている。

山童子 おーい

やまびこ① おーい

やまびこ② おーい

山童子 アオイー

やまびこ③ アオイー

山童子 おい、おまいら、アオイ見いなかったか。

やまびこ① 知らない。

やまびこ② 知らない。

やまびこ③ 山奥の岩戸にいたらが。

やまびこ①② おい！

やまびこ③ あ、すまん。

山童子 岩戸か。

山童子、さらに山奥に向かう。

山の中腹の花畑。月桂樹が群生している。アカとカケがいる。

アカ カケ、見い。黄色い花がたくさん咲いたるだ。綺麗だなあ。
カケ ふふっ、そうじゃな。

アカ なんか可笑しじゃ？あ、そかおまい目が見えんじやったか。悪りことしただ。

カケ いんやあ、ええんじやええんじや、おらには匂いがわかる。
アカ ほうか。

カケ ええ匂いじゃな。

アカ そじやろ。おれはこん匂いが好きなんじや。ここに来ると気持ちがすーっと落ち着くだ。

カケ この匂いは月桂樹じゃな。うちの周りにもなっとるだ。

アカ ゲツケイジユ？なんじや？

カケ この木の名前じゃ。アカ、葉の付いた枝をいくつか取って来てくれんよ。

アカ なんじや。

カケ ええから。

アカ、月桂樹の枝を折ろうとする。

アカ あ、折っちゃいかんよ。落ちとおるので大丈夫じゃ。

アカ、枝をいくつか拾って持ってくる。カケ、それを使って冠を編む。

カケ ほれ、出来た。(アカに被せてあげる)

アカ なんじゃこれ。

カケ 冠だ。アカにやるだ。

アカ にひ、にひひひ。あんがと。

カケ 似合っとるだよ。

アカ 見えとらんばろう。

二人、笑う。

カケ じゃが、見てみたいだな。きつと素敵なんばろうな。

アカ 俺が鬼じゃったらなあ。

カケ 鬼？

アカ なあ、とちやが言つとつただ。鬼には一度だけ他の傷を治したる力があるんだと。俺が鬼じゃったらかケの目治しちやるのにい。

カケ すんばいいらんよ。おらにはアカが見えとるだよ。

アカ じゃから見えとらんさない。

カケ 見えとる見えとる。

アカ はいはい。

二人、再び笑う。

山奥、山童子、岩戸の前にいる。やまびこ一、二がいる。

山童子 おい、アオイ！居(える)んだが？

アオイ …。

山童子 おまい、ここを死に場所に選んだんが？アカには何も言わんとそれでええだが？

アオイ …そうじゃ。

山童子 え？

アオイ そうじゃ。

山童子 …なにい？聞こえんわ。

アオイ そうじゃ！

山童子 やはりおまいは頑固もんじゃな！

アオイ しつこいぞ童子！えから帰れ。

やまびこ三がやってくる。

やまびこ三 山神様、雲神からの言伝じゃ。

山童子 なんじゃ来ない時に。

やまびこ三 もう時期山に村に大雨が降るじゃ。

山童子 雨なんぞここらじゃ珍しくなきだ。ようよう降つとるだ。

やまびこ三 こんきやあのはただの雨じゃなき。十年(とし)前のよに川が荒れるかもしれない。

山童子 ほうか、それは大事じゃ。アカにも伝えんと。おいアオイ！えから出てこい！こないな形でアカからケツをまくるなんぞわしが許さんかな。

山童子、山を降りていく。やまびこ達、立ち去る。
アカとカケが山の中腹にいる。滝が落ちる音が響いている。

カケ　ここは？

アカ　おれの氣に入りの場所じゃ。やなことあったらここに来るんじゃ。分かるが
か？滝が落ちとおるだ。

カケ　ああ、分かるだ。顔にもしぶきを感じるだだ。気持ちいいなあ。

アカ　にひひひ。だろうだろう。

カケ　…。

アカ　カケどしただ？

カケ　アカ、ちよいとおいで。

アカ　なん？どした？

アカ、カケの近くに寄る。カケ、アカの顔に触れる。

アカ、驚いてカケから離れる。

アカ　なんしたるだ！

カケ　嫌がらせたがか？悪かったなあ。

アカ　…いんや、そうもんじゃなぎや。嫌なんじゃなぎや。

カケ　ん？

アカ　おれ生まれた時から顔に大きな傷が付いとるだ。恥ずかしかんじゃそりや
あ。

カケ　（アカに近づき再び顔に触れ）いんやあ、素敵だ。人はな見かけじゃなぎや心
なんじゃ。あんたはこうやっておらを楽しませようとしていらる。それだけで嬉しい
んじゃ。あんがとなあ、アカ。

アカ　（カケの手に触れて）…カケの手は温いのう。なんが暖（あたた）のう氣持
ちになる。

滝の音が響いている。そこに山童子がやってくる。

山童子　アカ！

アカ　なあ！驚いただ！急に出てくんなと言ったたらが。

山童子　もうすぐ山と村とに雨が降るだ。すぐにうちに帰るだ。

カケ　アカ？誰と話とうだ？

山童子　（カケに氣が付いて）ぬわあ…ここいつ麓の村のもんか。

アカ　そうじゃ。

山童子 おまいらは父子(ちちこ)揃ってほんに勝手じゃ。今は見逃すが、こいつもぐに帰らんと川が氾濫するだ。帰られんくなるど。

アカ カケ、もうすぐ雨が降るんだと、んで川が氾濫するかもしれんだと。
カケ 大変じゃ。村がすんばいじゃ。

アカ、カケ、村に向かう。

太鼓の音。やまびこ達登場。

やまびこー 雨はその足を強め。川の嵩(かさ)を増していく。

やまびこ二 川は溢れんばかりに荒れ狂い。村を飲み込んでいく。

やまびこ三 村人は高台に逃げ逃げるが、急な氾濫に驚かされ人々は吞まれていく。

やまびこ達 川は人をば狂わさる。

川が現れる。村人たちが飲まれていく。

村人 助けとくれ。助けとくれ。

村人 大和さ、助けとくれよ。

村人 誰かー

大和は高台に逃げている。

大和 女、子供はさらに高台へ、まだ体力のある男は皆を引き上げるんだ。

山の中腹からアカとカケが様子を見ている。

カケ アカ、どうなっとるだ。みんなは？

アカ 大変じゃ幾人も流さるだる。

カケ そんな。みんなの命の声が消えてくた。

太鼓の音が響く。さらに川は水位を増し村を飲み込む。やまびこ達が居なくなり、日が昇る。生き残った村人数人と大和がいる。

大和 おい皆大丈夫か？

村人 みんな、みんな死んだ。ただ。

村人 かあちゃ、かあちゃー、いるだか？

村人 大和さ、なんでだんだ？なんでだん川がこないに溢るるだが？普段だじゃ川との間にある土堤が村を守るだ。こかいのやうな雨屁でもなかっただ。

村人 大和、川から水路引いたるだき、でえじよぶじゃあ言ううたらがん。

大和 それは…

村人 おい、どうゆうこちや。

村人 去る年、大和に入れ知恵され川から水路引いただ。あこから川の水が溢れいよ。とんだ悪知恵じゃったのう。

村人 まことんこんかい？

村人 まつことじゃ。おい、大和！どう責任取るだ？

村人 なあ、皆のもん！川の氾濫を沈めいために人柱が必要だぎや。今決めいか。

村人 おう、そうじゃなあ。人柱は村で罪を犯したもんがなる仕来りじゃ。ほい、大和、認めいか。お前がみなを殺したんじゃ。

アカ 人柱って？

カケ 磔じゃ。磔にして川辺に人を埋めるんだ。それで川の神の怒りを沈めるだ。

アカ 埋めるって、それじゃあ人は死ぬだないか。

カケ アカ、大和さを助けたいだ。手伝ってくれるだが？

アカ …ああ、当たり前だ。カケが守りたいもんは俺が守りとうもんじゃ。

アカ、カケを背負って山を降りる。川辺まで来て足を止める。

カケ どしただ？

アカ おれ川を超えられんかもしれぬじゃ。

カケ なんぜじゃ来るときは超えたばろう。

アカ じゃが、来た時とは比べられんほどに川が高くなつとるだ。

カケ 大丈夫、アカなら大丈夫じゃ。

アカ おう。

アカ、飛ぼうと助走を取る。走ろうとするが足が震えて動けない。

アカ なんじゃ震えおって。情けない。情けないぞ。

カケ アカ、大丈夫じゃ。おまいならやれるだ。怖くない。怖くない。

アカ 怖くない！怖くない！怖くないー！

太鼓の音。アカ、川を飛び越える。

カケ アカ、やった。やっただ。
アカ ああ、やった！やっただ！んじゃ、いくど。
カケ なあ。

大和が村人達に追い詰められている。
いつの間にかやまびこたちが混ざっている。

村人 さあ大和答えるだ。川の氾濫を招いたのは、村を沈めたのは誰じゃ！
村人 誰じゃ！

やまびこ1 誰じゃ！

やまびこ2 誰じゃ！

村人達・やまびこ 誰が村を殺した！

大和 鬼じゃ！鬼どもがやったんだ！

村人 鬼？

大和 そうじゃ鬼じゃ！鬼がカケさんの家を出入りしとるのを見ただが。そんな鬼が水路を壊したるんじゃが。水路は完璧じゃった、こないな雨で壊るもんじゃなぎゃ。鬼じゃ！鬼がやったんじゃ！

村人 カケさんじゃな、カケさんが分かるんだな？

大和 ああ、そうじゃあの女じゃ！あの女が鬼を手引いて川を氾濫させたるんじや！

村人 カケさんじゃ！カケさんを探さい！

村人 どこじゃ！

やまびこ3 どこじゃ！

村人 カケさんを入柱にせい。

やまびこ1 入柱にせい！

やまびこ2 入柱にせい！

村人 いたぞ！

村人がカケを引っ張ってくる。

カケ アカ！

アカ おい、おまい、カケに何するじゃ！

村人 誰じゃおのれは！わっぱは黙っちゃれいや！

村人達、アカを突き飛ばし、カケを磔にする。各々竹槍を持ってくる。

村 人 村の調和を乱すもんを殺せ！

やまびこ1 殺せ！

やまびこ2 殺せ！

村 人 前からあつは氣に入らんかったんじゃん。働き手にはならんし、その上飯はいちにん分。口減らしには丁度ええや。

やまびこ2 口減らし！

やまびこ3 口減らし！

村 人 殺せ。

村人達 殺せ！

村人達、一斉に竹槍を構えてカケに向かって突く。太鼓の音、アカが間に割つて入る。竹槍がアカを貫く。村人達、驚き、一瞬の静寂。しかし、

村 人 どういつでも同じじゃ！磔にしろ！

村 人 カケは連れいて行かい！

太鼓の音。村人、アカを磔にする。

カケは連れていかれてしまう。

山奥の岩戸の前。山童子がいる。

山童子 おいアオイ、えから出てこい雨で村が大変なこつなつたるだ。

アオイ 村人はまた人を磔にするんだろう。

山童子 なあ、するだろうだな。また鬼が増えるじゃ。

アオイ な？どういふこつだら？

山童子 おまいも分かるばろう。あん川は変わった川だ。川で流され死んだもんはみな鬼に姿を変えちまう。呪いのようなもんだ。

アオイ 川は人をば狂わさる。

山童子 ん？なんかいいか？

アオイ 川は人をば狂わさるってことか。

山童子 なあ、村の言われいだな。まあ、そういうことじゃあな。

アオイ (岩戸から出てきて)行かねば！

山童子 なあ！やつとでてきただ。アカのとこん行くだ。

アオイ ああ、わしはあんこの父親じゃ。

アオイ、山童子、山を下りていく。

村。アカが磔にされている。

村人 殺せ！

やまびこ1 殺せ！

やまびこ2 殺せ！

やまびこ3 殺せ！

やまびこ達 殺せ！

村人達、磔にしたアカを川に落とす。

太鼓の音。アカが力づくで磔から身を剥がし、川から上がってくる。額に角が生え、その姿はまるで鬼のように醜く恐ろしい。

村人 ああ鬼！鬼になったじゃ！

アカ ぬあ、

カケ アカ？

アカ ぬああああ！

アカ、ひたすらに暴れる。

村人 暴れだしただ！殺せ！殺せ！

村人 竹じゃ殺せんわ！桑だ、桑持つてこん！

村人達、アカに石をなげつる。桑を数本持つてきてアカに襲いかかる。そこに、アオイがやってきて桑をくらう。

アオイ (アカの様子を見て) なああ、立派になりやがってまああ。

村人 鬼が増えただ。

村人 もう、終わりじゃあ。

アオイ、村人たちをなぎ倒す。

アオイ アカ、聞こえるがか？

アカ 聞こえるだ。

アオイ 声が小せいだな。立派なのは姿だけか。

アカ うっさいわ。とちやには関係ないだ。

アオイ そうでもないだ。わしゃおまいの父だがらよう。

アカ …。
アオイ 悪かったなあ。とちやあ意固地だよ。
アカ 来んのが遅がしや。怖かった。怖かっただ。
アオイ なあなあ、こないに泣いて。お前はいつまでたってもアカじゃ。
アカ うっさいわ。
アオイ アカ、内緒にすとうたんじゃがな。
アカ なんじゃ。
アオイ カケはおまいの母じゃ。
アカ は？
アオイ カケを見た時、わしも目を疑った。じゃが、おまいが育つ度に思うとつたらが。おまいは母親似じゃ。アカ、カケを助けてやってくれ。
アカ とちや？

村人、体制を立て直し桑や鎌を構える。

村人 構わねえ。二人とも殺しちまえ！
アオイ なあ、村のもんよ。山から見とつたがおまいらはほんに醜いのう。何かあつたらひとのせい。いいことも悪いことも全部じゃ。なあ、それは楽しいんか。おまいらにまことの心はないじゃ。
村人 うるさい。俺たちはこうやって生きてきたんじゃ。他の生き方なんぞここにはないんじゃ。
アオイ 聞くだ！村のもん！水路を壊したるはわしじゃ。前からおまいらが嫌だったんじゃ。
大和 なんじゃと。
アオイ 聞こえんかったか！じゃら名乗うてやらあ。我こそは人共が住まう村の上、川伝いの山に家族を持つアオイとう申す者じゃあ。川を氾濫させ村を死に迫りやしたんはワシじゃ！
村人 殺せ！
村人達 殺せ！！

村人達、桑や鎌を振り下ろしアオイを殺す。
カケの家の前。アカが力なく歩いている。

アカ (戸を叩き)カケ、いるるか？(戸を開けて殴られ倒れているカケを見つける)
カケ！丈夫がか？
カケ …。

アカ カケ…

アカ、カケを抱きかかえる。

アカ カ、そうじゃカじゃ、鬼には人を治す力があるんだらあが。ちから！ちから！ちから…！使い方なんぞわからんら…！ちから！ちから！ちから！

カケ…。

アカ 俺には無理じゃ。やはり無理なんじゃ。

アカ、泣き崩れる。カケ、ゆっくりと目を開け、静かに体を起こす。

カケ …アカ、アカなんか？

アカ カケ！目え覚めたんが。えがった。えがったあ。

カケ …。

アカ カケ？

カケ アカ、おら、アカの姿が見えるだ。ほんに見えるだ。

アカ え？ほんに？

カケ んだ。

アカ なあ、いや、そのえつと、見るな！俺は今とても醜い姿をしとる。見るんらない。

カケ、アカを抱きしめる。

カケ やっぱりアカは綺麗だなあ。おらの思つとつたとおじゃ。冠も似合つとる。

アカ なあ、あんがと（再び泣き出してしまふ）

村。アオイが倒れている。

やまびこ達が舞う。月が出てきて夜になる。アオイはいつの間にかいなくなっている。山童子がやってくる。

山童子 なあ、アオイ。おまいは神になったんだが？

アオイ …。

山童子 おまいが赤ん坊連れて川に溺れたとき。そりや驚いただ。ただん村のもんながら、あないあれとおる川には近づかんや。ほんにおまいは酔狂なやつじゃが。

アカがやってくる。

アカ 山童子、とちゃはどこらいっただ？

山童子 やつはきつと神になっただ。

アカ 神？山童子みたいにか。なんの神じゃろ。じゃがまた会えんじゃろ。

山童子 (首を横に振る)

アカ、泣き崩れる。

アカ わああああ。おれまだとちゃにお礼を言ってないだ。あんがとって言うてないら。

山童子 アカ、帰ろう。

アカ 帰ってもとちゃはいないだ。家には誰もいないだ。おら一人で行かなて行けなんだが。

山童子 帰ろう、山に。

山童子、アカの手を握る。二人、山に帰る。

やまびこ達が舞いながら着いていく。朝日が昇る。

村。村人たちが村を建て直している。

大和 人手が足りないところを手伝いに行ってくれ。

村人 分かっただ。おい、男手ども、力を貸せい。

村人が一人走ってくる。

村人 大和ー、大和ー。

大和 どうした？

村人 川が！川が！

大和 また誰か流されたか？

村人 違うんじゃ、川が、川が干上がつとる。

大和 は？

大和、川辺に向かう。

カケの家。カケと村の子供が遊んでいる。

子供 カケさんカケさん。あん歌歌って歌って。

カケ ええぞ。コン歌はなほんにあつたあつた話じゃ。

子供 聞かせて。

太鼓の音。カケ、歌い出す。

カケ むがしむがしが あったげな

山と村とが あったげな

むがしむがしが あったげな

人と鬼との 物語り

むがしむがしが あったげな

山に鬼共 居(え)たらげな

父と娘が 居(え)たらげな

満月の夜の 物語り

川辺。大和と村人がいる。

大和 川が干上がってる。

村人 ほんじゃったろ。

大和 ああ、しんじられないことだが。

村人 なんぜじゃら。

大和 今日は日がやけに強いな。そのせいだろう。

太鼓の音。山童子、登場。歌い出す。

山童子 (歌)むがしむがしが あったげな

山と村とが あったげな

むがしむがしが あったげな

人と鬼との 物語り

歌の合間に舞台には出演者全員が頭に手ぬぐいを巻いて歌い踊っている。それは祭りのようである。

山童子 (歌)むがしむがしが あったげな

山に鬼共 居(え)たらげな

父と娘が 居(え)たらげな

満月の夜の 物語り

アカ、アオイ。列から離れ、舞台全面に出る。
その他の登場人物は立ち去る。

アカ（歌）鬼だ鬼だと言えばかな 姿形が違（たが）うだけ

アオイ（歌）村の人共よか どが立派な心持ち

山童子（歌）むがしむがしが あったげな

山と村とが あったげな

むがしむがしが あったげな

人と鬼との 物語り

満月の夜の 物語り

山童子 わしの話はこれでしまいじゃ。とっぴんぱらりのぶうのぶう。

幕。